

宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成29年7月～9月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

平成29年10月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成 29 年 7～9 月期

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市商工会、大河原町商工会、みやぎ仙台商工会、くろかわ商工会、加美商工会、遠田商工会、若柳金成商工会、みやぎ北上商工会、石巻かほく商工会、本吉唐桑商工会
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 146 企業

2. 調査対象期間

平成 29 年 7 月～9 月期を対象として、調査時点は平成 29 年 9 月 1 日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	3 2
建 設 業	2 4
小 売 業	4 4
サービス業	4 6
合 計	1 4 6

5. そ の 他

本報告書中の D I とは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期(平成 29 年 7 月～9 月期)の調査において、産業全体の業況D I (前年同期との比較D I、以下同じ)は、前期より 3.7 ポイントの改善で△27.8 (前期△31.5) となった。産業別にみると、製造業が 0.0 (前期△21.9) と 21.9 ポイント改善、建設業で△20.9 (前期△13.0) と△7.9 ポイント悪化、小売業で △54.5 (前期△52.4) と△2.1 ポイント悪化、サービス業では△25.0 (前期△28.2) と 3.2 ポイントの改善であった。

(1) 主要景況項目のあらまし

① 売上額(完成工事額)の状況

売上額(完成工事額) D I では、全体として今期は前期 (H29 年 4 月～6 月期) に比べて若干改善した。産業別にみると、製造業は△12.5 (前期△16.1) で 3.6 ポイントの改善、建設業は△20.9 (前期△13.1) で△7.8 ポイントの悪化、小売業は△40.9 (前期△48.8) と 7.9 ポイント改善、サービス業では△24.4 (前期△19.6) と△4.8 ポイントの悪化であった。

② 採算の状況

採算D I についても、全体として今期は前期に比べて改善した。産業別にみると製造業で△6.4 (前期△18.8) と 12.4 ポイント改善、建設業で△25.0 (前期△17.4) と △7.6 ポイント悪化、小売業で△44.2 (前期△53.5) と 9.3 ポイント改善、サービス業では△33.3 (前期△30.5) と△2.8 ポイント悪化した。

③ 設備投資の状況

新規投資の実施比率は、製造業では 21.9%で前期比△3.1 ポイント減少、建設業では 12.5%で前期比△13.6 ポイント減少、小売業では 6.8%と前期比 4.5 ポイント増加、サービス業では 13.0%と前期と同じであった。

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

H29年9月調査の日銀短観で、「中小企業の業況判断指数（D I）は前期（H29年6月調査）と比較して製造業が3ポイント改善のプラス10、非製造業は1ポイント改善のプラス8だった。先行きは製造業、非製造業共に今期に比べ悪化を見込んでいる」と発表された。

宮城の今期売上額（完成工事額）D Iは、全業種でマイナス値であった。前期との比較では製造業・小売業で改善、建設業・サービス業で悪化となった。

今期の宮城の全国、東北との売上額D I比較では、製造業・建設業・小売業で全国・東北以下、サービス業で全国以下、東北以上であった。

表－1 売上額（完成工事額）の状況（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 8.2	△ 8.4	△ 17.0	△ 9.9	△ 16.1	△ 12.5
建 設 業	△ 8.2	△ 10.8	△ 6.6	△ 12.4	△ 13.1	△ 20.9
小 売 業	△ 30.9	△ 35.0	△ 45.6	△ 40.4	△ 48.8	△ 40.9
サービ業	△ 16.4	△ 18.3	△ 25.7	△ 24.9	△ 19.6	△ 24.4

② 採 算

宮城の今期の採算D Iは、全業種でマイナス値であった。前期との比較では、製造業・小売業で改善したが、建設業・サービス業で悪化した。今期の宮城の全国、東北との採算D I比較では、製造業で全国・東北以上、建設業・小売業・サービス業で全国・東北以下であった。

表－2 採算の状況（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 13.4	△ 11.8	△ 15.6	△ 14.0	△ 18.8	△ 6.4
建 設 業	△ 11.4	△ 14.7	△ 14.6	△ 16.4	△ 17.4	△ 25.0
小 売 業	△ 30.0	△ 30.3	△ 43.4	△ 33.7	△ 53.5	△ 44.2
サービ業	△ 21.5	△ 21.8	△ 32.0	△ 26.0	△ 30.5	△ 33.3

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

宮城の売上額（完成工事額）来期見通しD I（H29年9月～12月期）では、今期状況D Iとの比較で、製造業で6.3ポイントの改善、建設業で4.3ポイントの改善、小売業で△4.5ポイントの悪化、サービス業で4.8ポイントの改善見通しとなった。

採算来期見通しD Iでは、今期状況D Iとの比較で、製造業で△3.3ポイントの悪化、建設業で8.3ポイントの改善、小売業で7.0ポイントの改善、サービス業で11.5ポイントの改善見通しとなった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期見通しとの比較において、製造業では、売上は全国・宮城で改善、採算は全国で若干の改善、宮城で悪化の見通しとなった。建設業では、売上は全国で若干の悪化、宮城で改善、採算は全国で若干の悪化、宮城で改善の見通しとなった。小売業では、売上は全国で改善、宮城で悪化の見通し、採算では共に改善見通しとなった。サービス業では、売上では全国で若干の悪化、宮城で改善の見通し、採算では全国・宮城共に改善の見通しとなった。

表－3 売上額（完成工事額）の状況と見通し（前年同期比・D I）

区 分 業 種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製 造 業	△ 8.4	△ 6.4	△ 12.5	△ 6.2
建 設 業	△ 10.8	△ 12.8	△ 20.9	△ 16.6
小 売 業	△ 35.0	△ 34.0	△ 40.9	△ 45.4
サービス業	△ 18.3	△ 18.6	△ 24.4	△ 19.6

表－4 採算の状況と見通し（前年同期比・D I）

区 分 業 種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製 造 業	△ 11.8	△ 11.0	△ 6.4	△ 9.7
建 設 業	△ 14.7	△ 15.4	△ 25.0	△ 16.7
小 売 業	△ 30.3	△ 28.4	△ 44.2	△ 37.2
サービス業	△ 21.8	△ 19.0	△ 33.3	△ 21.8

2. 県下産業別の景況

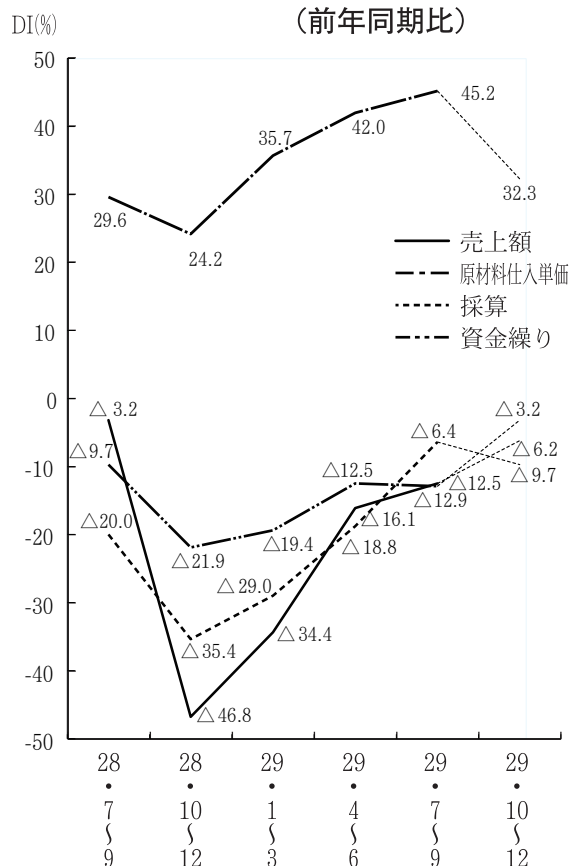
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期△12.5（前期△16.1）となり3.6ポイント前期より改善、採算D Iは今期△6.4（前期△18.8）で12.4ポイントの改善、資金繰りD Iは今期△12.9（前期△12.5）で△0.4ポイントの若干の悪化となった。

原材料仕入単価は今期 45.2（前期 42.0）と3.2ポイントの上昇となった。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



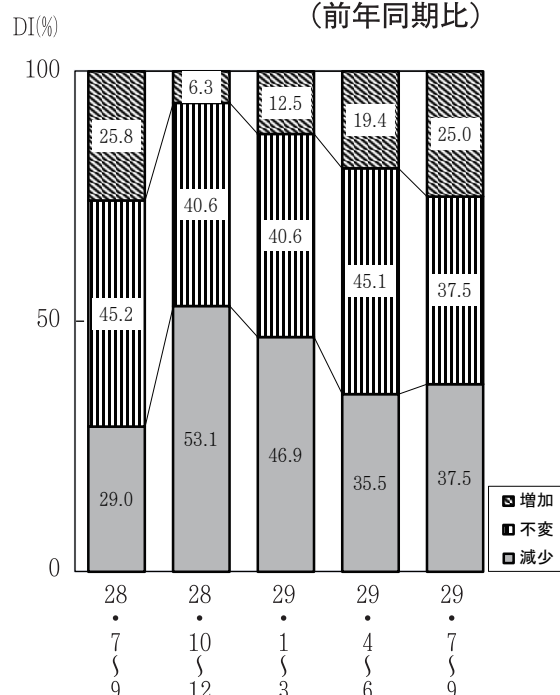
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工)額

「増加」と回答した企業は、全体の25.0%（前期19.4%）と5.6ポイント増加し、「減少」と回答した企業も37.5%（前期35.5%）と2.0ポイント増加した。

結果として売上（加工）額D Iは△12.5（前期△16.1）となり前期比3.6ポイント改善した。

図1-2 売上(加工)額の状況
(前年同期比)

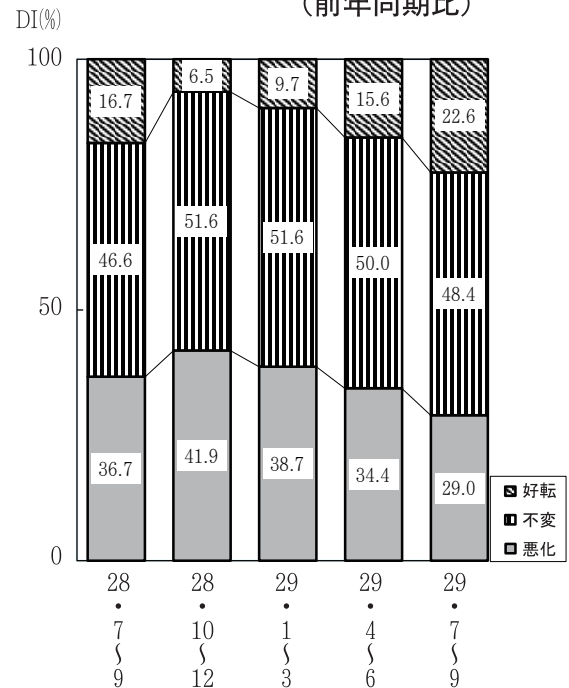


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 22.6% (前期 15.6%) で 7.0 ポイント増加し、「悪化」と回答した企業は 29.0% (前期 34.4%) で Δ 5.4 ポイント減少した。

その結果、採算 D I は Δ 6.4 (前期 Δ 18.8) で前期比 12.4 ポイント改善した。

図 1 - 3 採算の状況
(前年同期比)



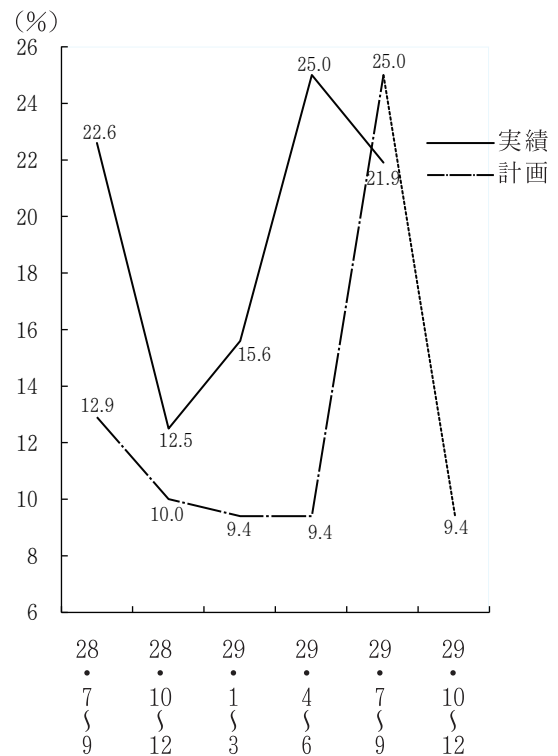
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施(実績)企業割合は、全体の 21.9% (前期 25.0%) で前期と比べ Δ 3.1 ポイント減少した。

その設備内容は、生産設備、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 9.4% で、その設備内容は、生産設備となっている。

図 1 - 4 設備投資の状況

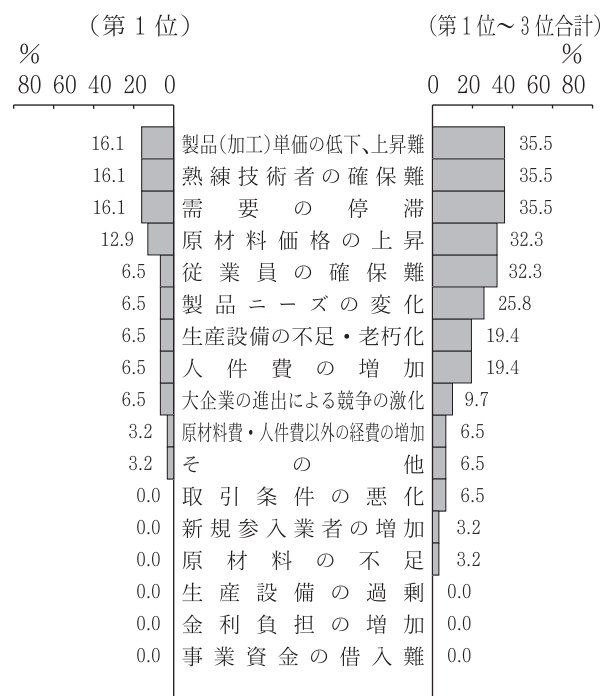


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「製品（加工）単価の低下、上昇難」、「熟練技術者の確保難」、「需要の停滞」が同率16.1%であった。

重要度第1位から第3位合計でも「製品（加工）単価の低下、上昇難」、「熟練技術者の確保難」、「需要の停滞」が35.5%（複数回答計）で同率最上位であった。

図1-5 経営上の問題点



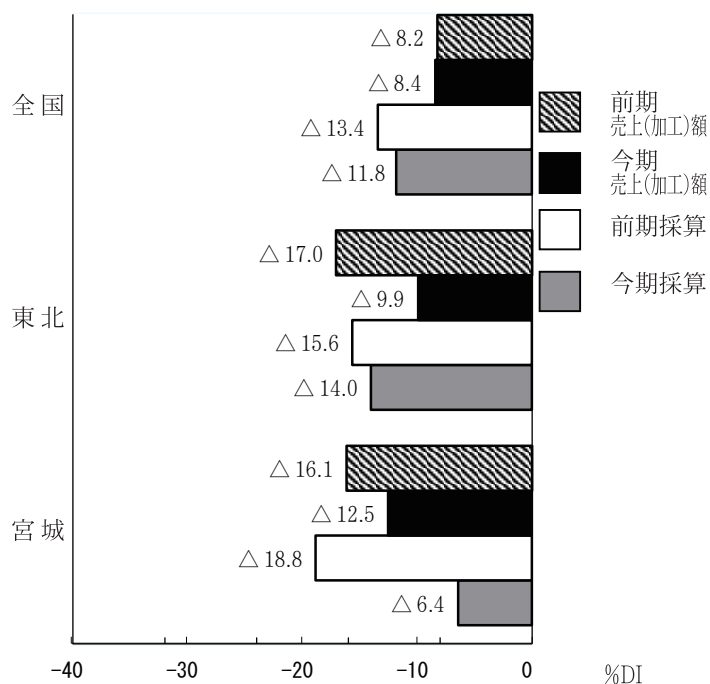
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では売上（加工）額DIでは全国で若干の悪化、東北・宮城で改善した。その改善度は、東北、宮城の順であった。

採算DIの比較では全区分で改善した。その改善度は宮城が大きく、続いて全国・東北が同じ改善度であった。

本県回答事業者からは「従業員の確保難で生産量アップが困難」（電子機器・部品製造業）や、「自身の高齢化で、今後の事業の引き継ぎを検討」（印刷業）などのコメントがあった。

図1-6 全国東北宮城売上（加工）額・採算比較（前年同期比）



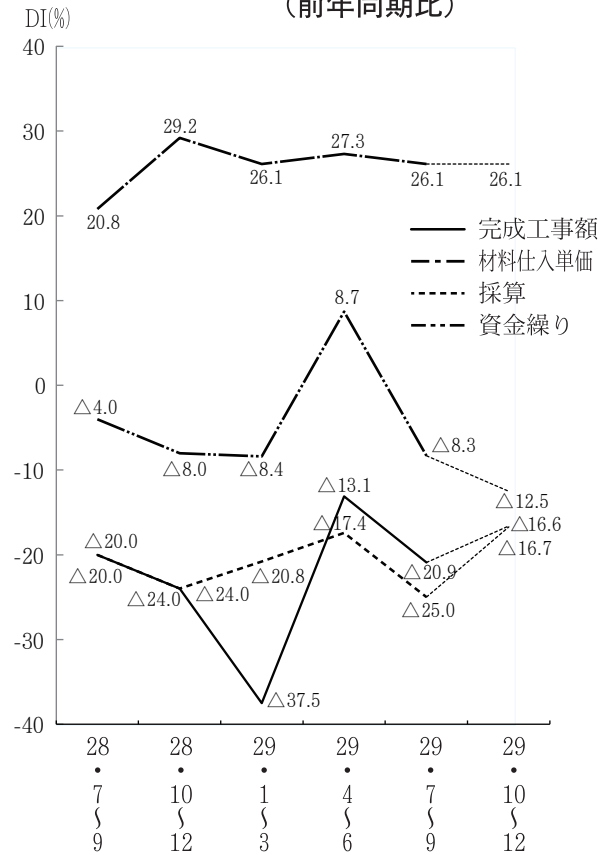
(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは今期△20.9（前期△13.1）と前期より△7.8ポイント悪化、採算D Iも今期△25.0（前期△17.4）で△7.6ポイント悪化、資金繰りD Iも今期△8.3（前期8.7）と△17.0ポイント悪化した。

材料仕入単価D Iは今期 26.1（前期 27.3）と前期より△1.2ポイント低下した。

図 2 - 1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



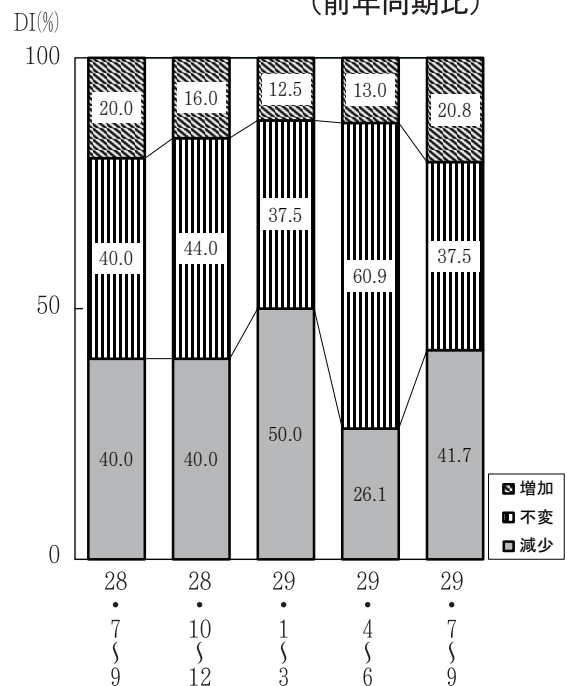
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「増加」と回答した企業は全体の 20.8%（前期 13.0%）で 7.8ポイント増加、「減少」と回答した企業も 41.7%（前期 26.1%）と 15.6ポイント増加した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは△20.9（前期△13.1）と△7.8ポイント前期より悪化した。

図 2 - 2 完成工事額の状況
(前年同期比)

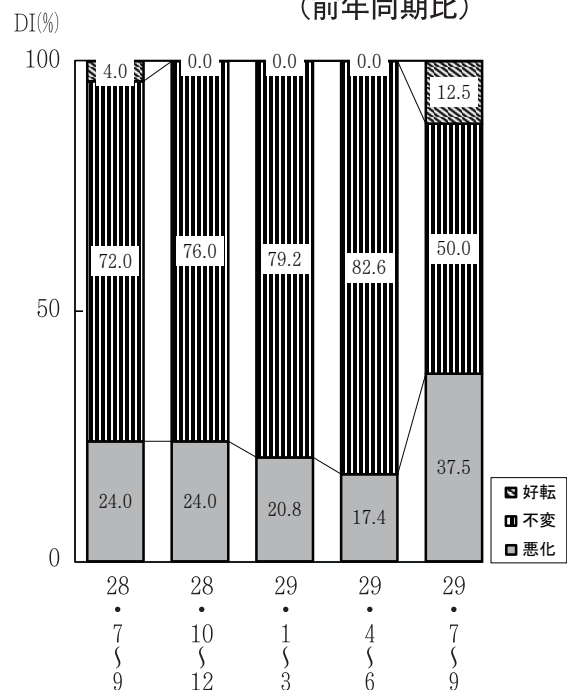


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 12.5% (前期 0.0%) で 12.5 ポイント増加、「悪化」と回答した企業も全体の 37.5% (前期 17.4%) で 20.1 ポイント増加した。

その結果、採算DIは△25.0 (前期△17.4) と△7.6 ポイント悪化した。

図 2 - 3 採算の状況
(前年同期比)



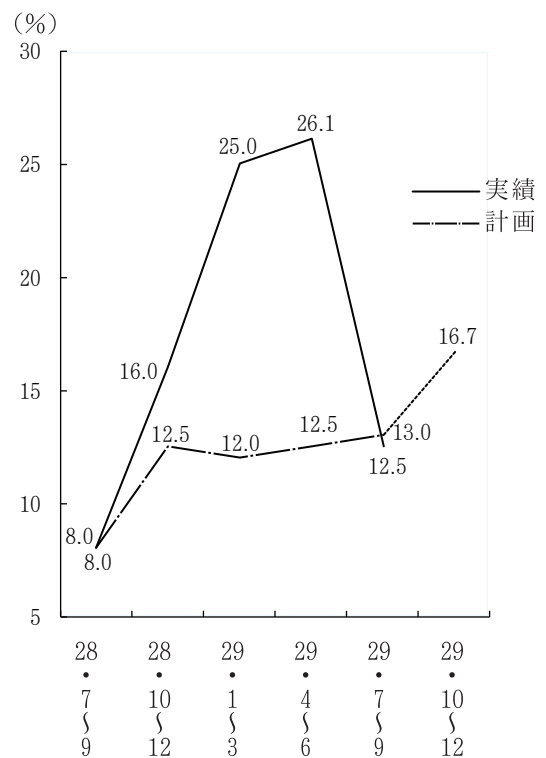
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施(実績)企業割合は、全体の 12.5% (前期 26.1%) で前期より△13.6 ポイント減少した。

その設備内容は、建設機械、車両・運搬具、福利厚生施設であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 16.7% で、その設備内容は、土地、建物、建設機械、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、福利厚生施設、その他となっている。

図 2 - 4 設備投資の状況

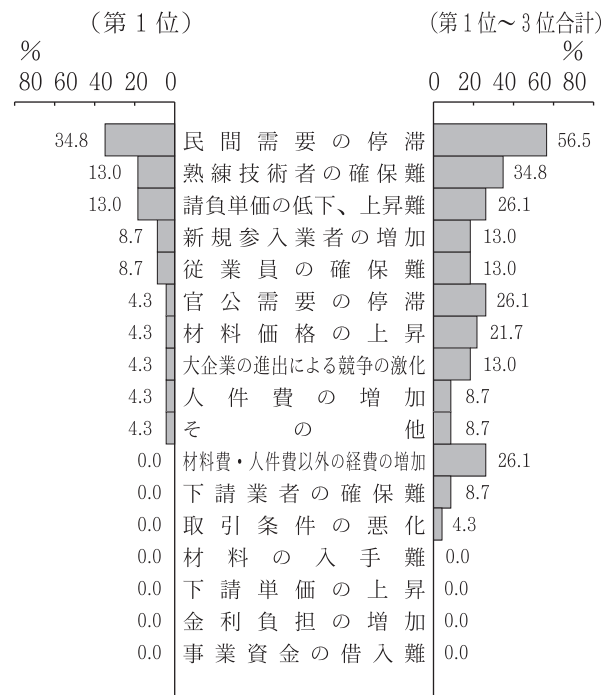


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「民間需要の停滞」が34.8%で、次いで「熟練技術者の確保難」と「請負単価の低下、上昇難」が同率13.0%であった。

重要度第1位から第3位合計では、「民間需要の停滞」が56.5%（複数回答計、以下同じ）で最上位、次いで「熟練技術者の確保難」が34.8%、「請負単価の低下、上昇難」、「官公需要の停滞」、「材料費・人件費以外の経費の増加」が同率26.1%で続いた。

図2-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較では、売上額D Iは全区分で悪化した。

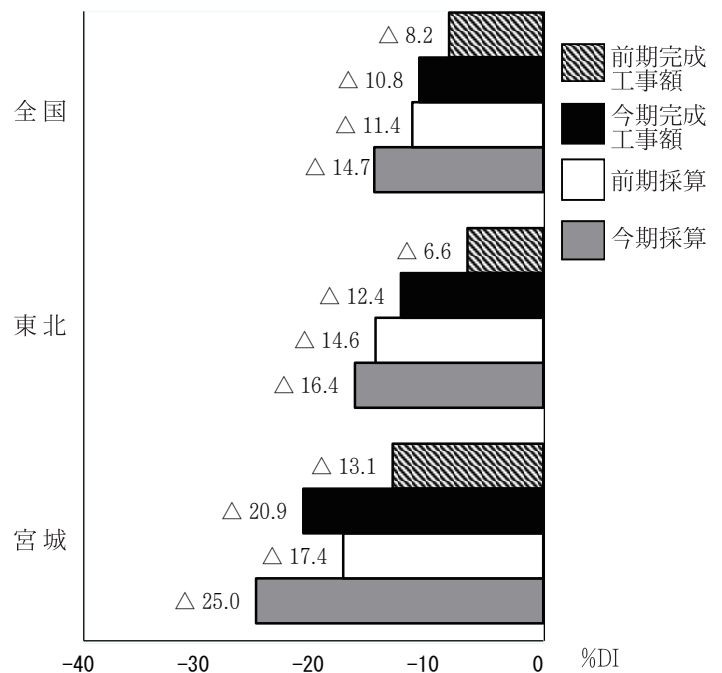
その悪化度は宮城、東北、全国の順であった。

採算D Iの比較でも全区分で悪化した。

その悪化度は宮城、全国、東北の順であった。

本県回答事業所からは「復興需要終了後の需要見通しをたてて、投資対応を見極める」や、「価格の競争により請負単価が低下傾向にある」などのコメントが寄せられた。

図2-6 全国東北宮城売上完成工事額・採算比較（前年同期比）



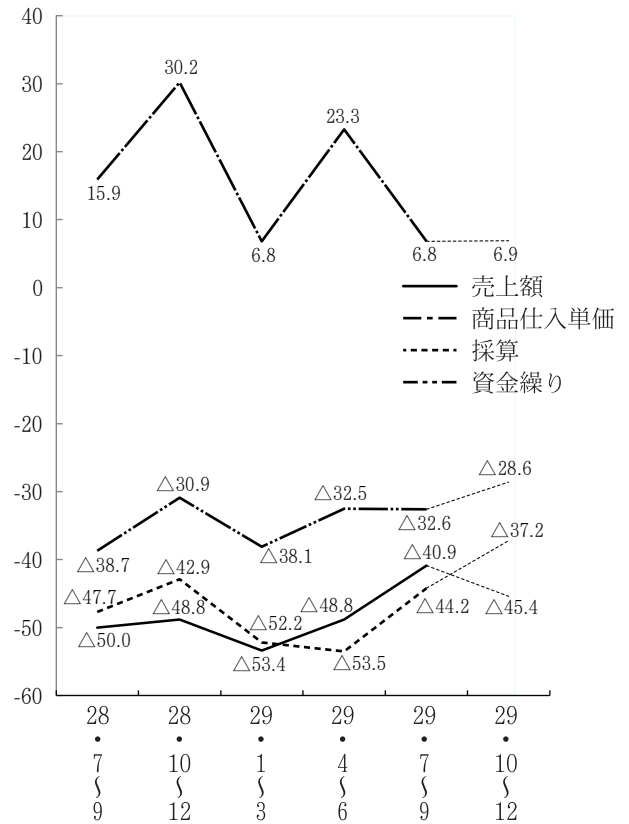
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは今期△40.9（前期△48.8）と前期に比べ7.9ポイントの改善、採算D Iは今期△44.2（前期△53.5）で9.3ポイント改善、資金繰りD Iでは今期△32.6（前期△32.5）で△0.1ポイントと若干悪化した。

商品仕入単価D Iは今期6.8（前期23.3）となり△16.5ポイント低下した。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



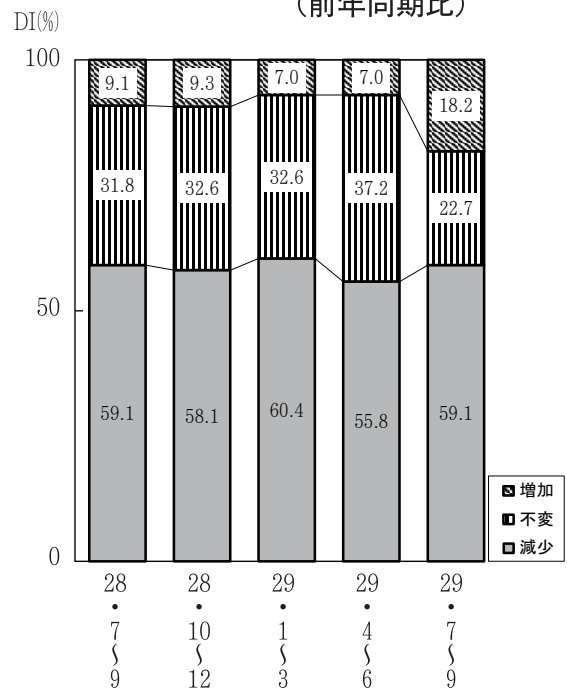
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の18.2%（前期7.0%）で11.2ポイント増加、「減少」の回答も今期は全体の59.1%（前期55.8%）で3.3ポイント増加した。

その結果、売上額D Iは今期△40.9（前期△48.8）と7.9ポイント前期より改善した。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)

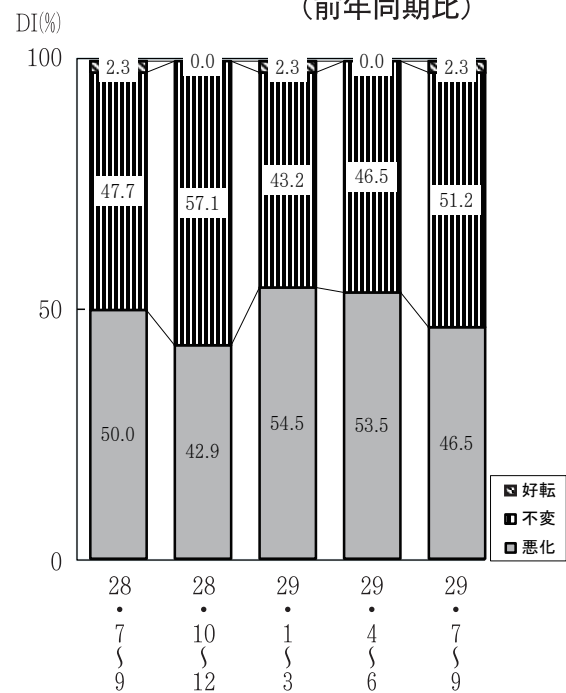


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の2.3%（前期0.0%）と2.3ポイント増加、「悪化」の回答は、今期は全体の46.5%（前期53.5%）で△7.0ポイント減少した。

その結果、採算DIは、今期△44.2（前期△53.5）で前期より9.3ポイント改善した。

図3-3 採算の状況
(前年同期比)



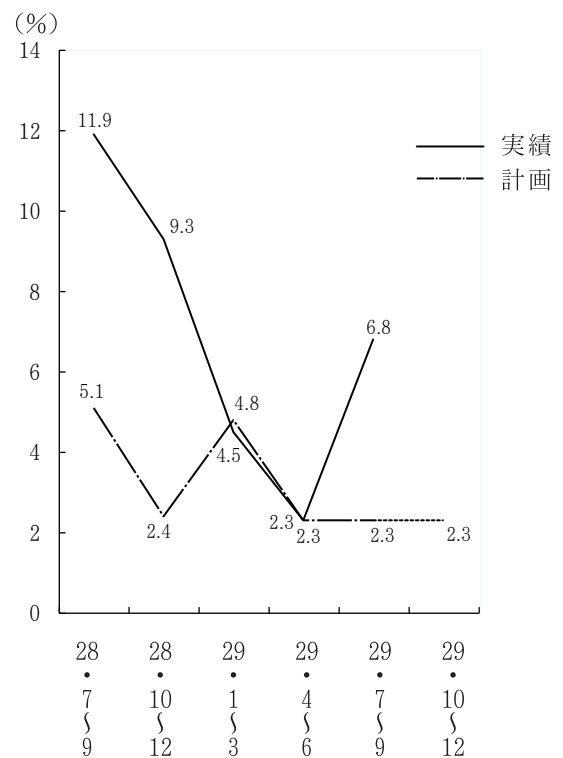
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、今期は全体の6.8%（前期2.3%）で、前期より4.5ポイント増加した。

その設備内容は、店舗、販売設備、車両・運搬具であった。

来期に設備計画している企業は全体の2.3%で、その設備内容は、車両・運搬具となっている。

図3-4 設備投資の状況

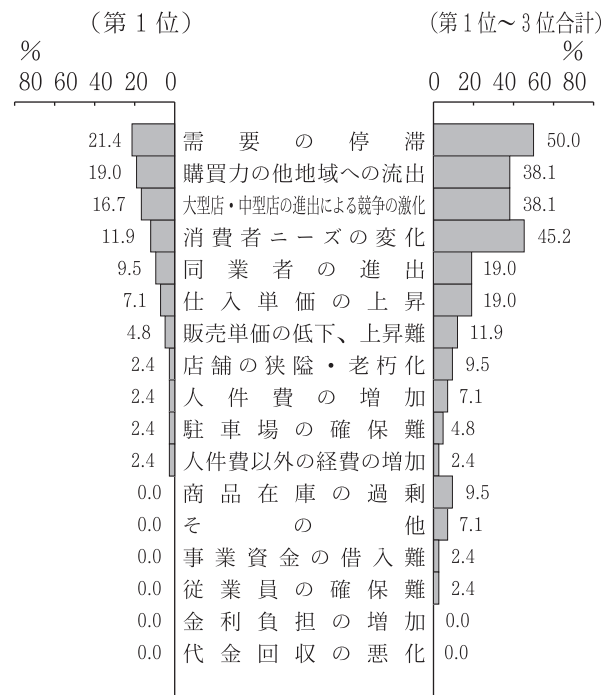


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」で21.4%、次いで「購買力の他地域への流出」が19.0%、「大型店・中型店の進出による競争の激化」が16.7%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」が最上位の50.0%（複数回答合計、以下同じ）で、次いで「消費者ニーズの変化」が45.2%、「購買力の他地域への流出」と「大型店・中型店の進出による競争の激化」が同率38.1%で続いた。

図3-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では、売上DIは全国で悪化、東北・宮城で改善した。

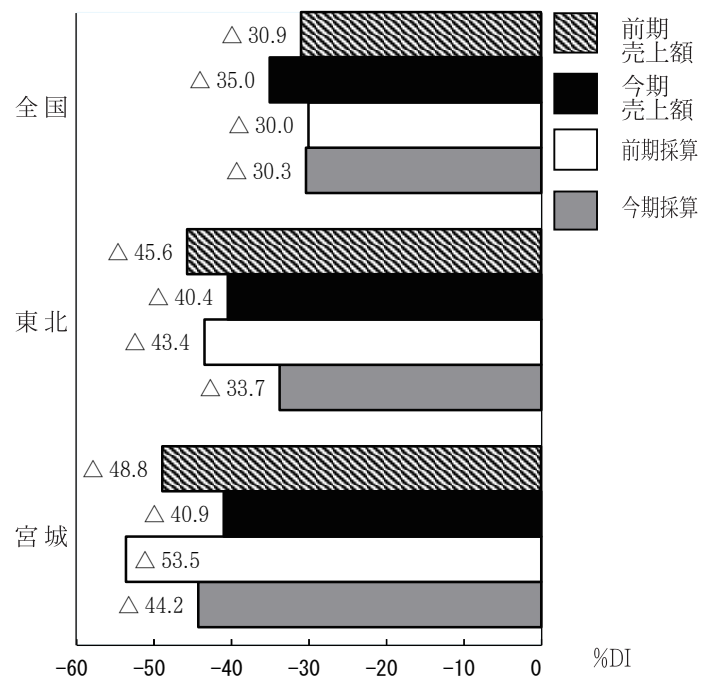
改善度は宮城、東北の順であった。

採算DIでは、全国で若干の悪化、東北・宮城で改善した。

改善度は東北、宮城の順であった。

本県回答事業所から「現状固定客対応で何とか凌いでいる状況だが、今後もっと新しいお客様の開拓が必要」（花・植木販売）や「大型店やコンビニに対抗するため、自店で対応できるサービスイベント予約会などの年間行事を立ててしっかり実施する必要あり」（生鮮食料品・雑貨等販売）などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較（前年同期比）



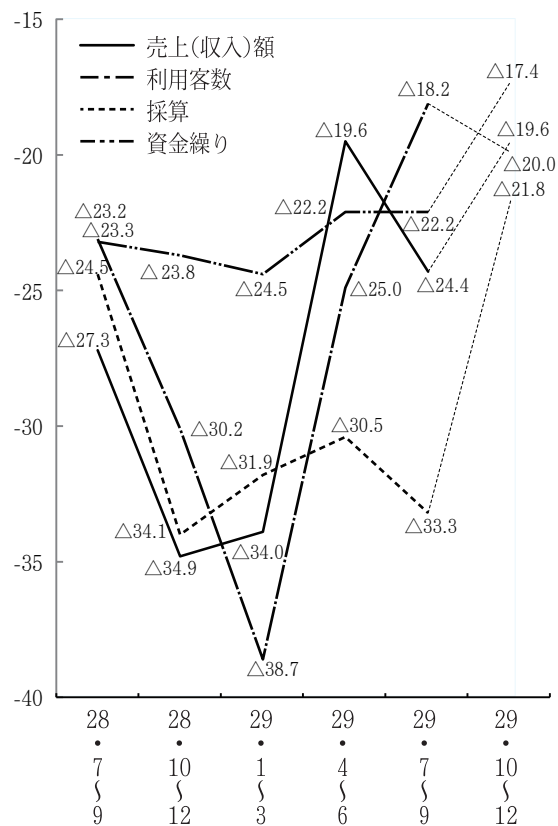
(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上（収入）額D Iは今期△24.4（前期△19.6）で△4.8ポイント悪化、採算D Iも今期△33.3（前期△30.5）で△2.8ポイント悪化、資金繰りD Iは今期△22.2（前期△22.2）と前期と同じであった。

利用客数D Iは今期△18.2（前期△25.0）で6.8ポイント上昇した。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



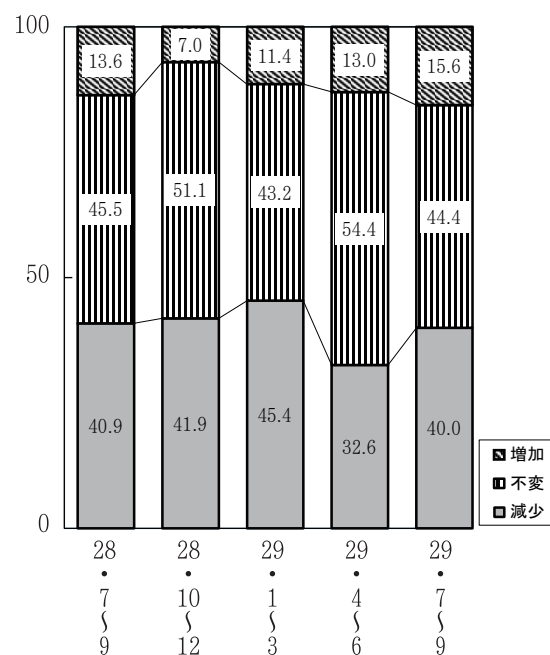
② 主要景況項目別状況

(a) 売上（収入）額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の15.6%（前期13.0%）で2.6ポイント増加、「減少」の回答も今期40.0%（前期32.6%）で7.4ポイント増加した。

その結果、売上（収入）額D Iは今期△24.4（前期△19.6）で前期より△4.8ポイント悪化した。

図4-2 売上（収入）額の状況
(前年同期比)

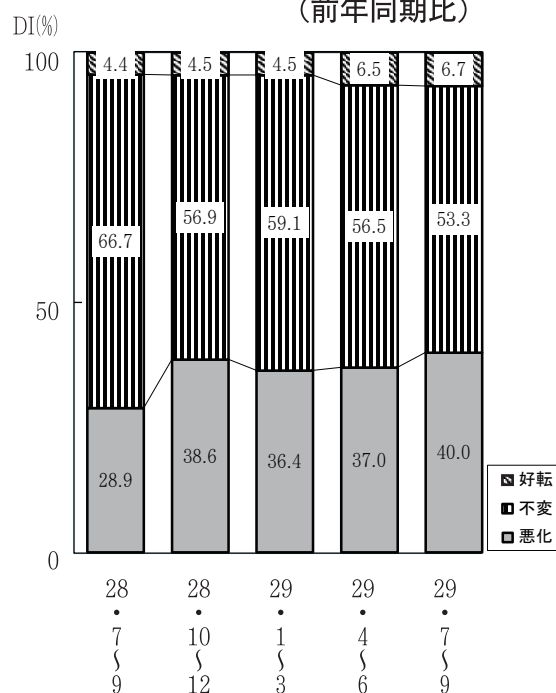


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の6.7%（前期6.5%）で0.2ポイント増加、「悪化」と回答した企業も今期40.0%（前期37.0%）と3.0ポイント増加した。

その結果、採算DIは今期△33.3（前期△30.5）で前期より△2.8ポイント悪化した。

図4-3 採算の状況
(前年同期比)



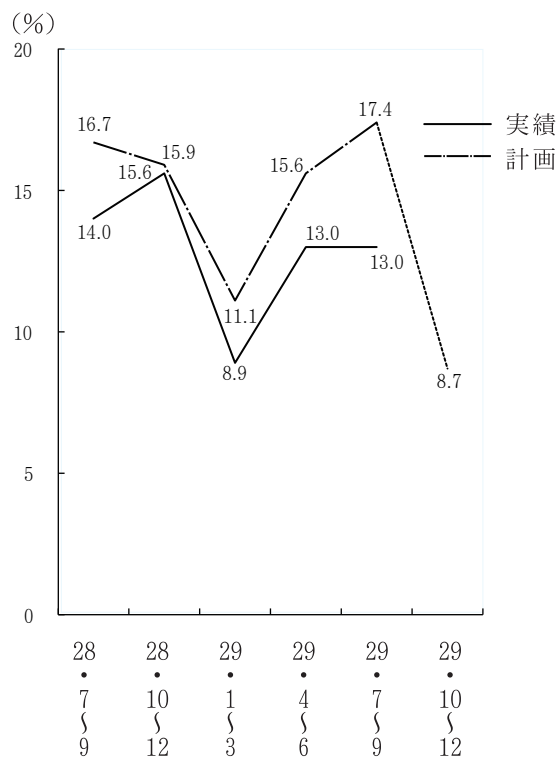
(c) 設 備 投 資

今期新規投資を実施（実績）した企業は、全体の13.0%（前期13.0%）で前期と同じであった。

その設備内容は、土地、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設、その他であった。

来期に設備計画している企業割合は全体の8.7%であり、その設備内容は、土地、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設となっている。

図4-4 設備投資の状況

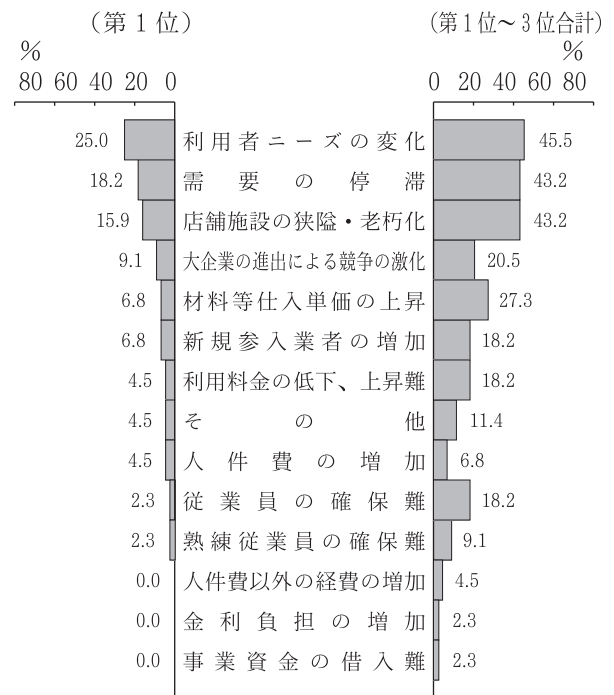


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は「利用者ニーズの変化」で25.0%、次いで「需要の停滞」が18.2%、「店舗施設の狭隘・老朽化」が15.9%で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも「利用者ニーズの変化」が45.5%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、「需要の停滞」と「店舗施設の狭隘・老朽化」が同率43.2%で続いた。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

前期と今期の比較において、売上DIは全国・宮城で悪化、東北で若干の改善となった。

悪化度は宮城、全国の順であった。

採算DIでは全国で若干の悪化、東北で改善、宮城で悪化となった。

本県回答事業所からは「新規のお客様は増えているものの店舗施設の狭隘により対応に限界。設備等の増加を含めて検討する」（飲食業）とのコメントや、「大型店出店で売り上げ減少。広告の強化で増加を図る」（美容業）などのコメントが寄せられた。

図4-6 全国東北宮城売上（収入）額・採算比較（前年同期比）

